

# 随想随筆

立命館大教授

おおたに

大谷いづみ

1 2 3 4

人生のどこかで、予想だにできなかった理不尽に直面することがある。突然の病に襲われることもあれば、

事件や事故に巻き込まれることもある。その瞬間から「なぜ私が?」「なぜ私に?」という問いと向き合わねばならない。

2019年6月2日、NHKスペシャル「彼女は安楽死を選んだ」が放映された。タイトルから内容の予想はついたが、神経難病の小島ミナさんのスイスでの

## なぜ?という問い

### 番組が与える影響懸念

医師幫助自殺を、実名の?な描写だった。番組のつく人の姉ともども、およそこりが与える影響を、即座にこまで描くとは思わなかつ懸念した。

た。迷惑をかけたっていいと説得し続けた妹のその後も気になった。

バランスを考えたのだから。呼吸器をつけて生きることを選んだ同じ神経難病の女性とその家族も登場するが、まるで当て馬のよう

これを視た京都在住のA組である。

LS患者、林優里さんがSNS上で知り合った医師に

嘱託殺人を依頼して亡くなったのは、その年の11月30日「人生会議」の日。厚労省の啓蒙ポスターがSNSで炎上していた。

NSへ放映後、負に引きずり込まれるような感情を立て直すために、いくつかの番組を繰り返し見た。ひとつは6日後に放映されたEテレ「こころの時代——宗教・人生」の「隣人といのちの電話」だ。和歌山県三段壁白浜で長年自殺予防に取り組んできた、藤藪庸一牧師へのインタビュー番組で、負に引きずり込まれるような感情を立て直すために、いくつかの番組を繰り返し見た。ひとつは6日後に放映されたEテレ「こころの時代——宗教・人生」の「隣人といのちの電話」だ。和歌山県三段壁白浜で長年自殺予防に取り組んできた、藤藪庸一牧師へのインタビュー番組で、

続ける25年である。

強い意志で医師幫助自殺を遂行した小島ミナさんと、執拗ないじめや自責の念から自殺に追い込まれた大河内清輝君と伸昌さんでは、「選択」の有無で異なるので解けるだろうか。「なぜ?」という問いに、メディアやSNSは、教育族のその後を描いたものは、どんな「答え」を用意してしまっただろうか。